

2016年の人気本

予約が多数かった人気本ランキングです。【期間：平成28年1月1日～11月25日】

図 書 名	著 者	出 版 者	図 書 名	著 者	出 版 者
1 羊と鋼の森	宮下奈都	文藝春秋	11 人魚の眠る家	東野圭吾	幻冬舎
2 コンビニ人間	村田沙耶香	文藝春秋	12 坂の途中の家	角田光代	朝日新聞出版
3 危険なビーナス	東野圭吾	講談社	13 カエルの楽園	百田尚樹	新潮社
4 陸王	池井戸潤	集英社	14 仮面病棟	知念実希人	実業之日本社
5 天才	石原慎太郎	幻冬舎	14 火花	又吉直樹	文藝春秋
5 希望荘	宮部みゆき	小学館	16 あの日	小保方晴子	講談社
7 海の見える理髪店	荻原浩	集英社	17 向田理髪店	奥田英朗	光文社
8 コーヒーが冷めないうちに	川口俊和	サンマーク出版	18 九十歳。何がめでたい	佐藤愛子	小学館
8 ポイズンドーター・ホーリーマザー	湊かなえ	光文社	19 嫌われる勇気	岸見一郎	ダイヤモンド社
10 君の膵臓をたべたい	住野よる	双葉社	20 恋のゴンドラ	東野圭吾	実業之日本社

職員おすすめの本 2016私が選んだ3冊

2016年を振り返って、今年出版された本や話題になった本などの中から、図書館職員が3冊選びました。

『羊と鋼の森』

宮下 奈都／著（文藝春秋）**小説 913.6**

ピアノが好きな双子の女の子と調律師の物語。素直な二人の女の子の言動と、調律という仕事に誠実に向き合う主人公の様子にとっても気持ちよく読める作品です。ピアノの調律の奥深さを知るとともに、調律に関する会話ではあるけれど、いろいろなものごとに対する向き合い方を教えられる気がします。

『暗幕のゲルニカ』

原田 マハ／著（新潮社）**小説 913.6**

ピカソの〈ゲルニカ〉とそれを模したタペストリーをめぐる物語。ピカソがこの作品を描いた時代と現在が並行して描かれ、美術館のキュレーターである主人公の拉致事件まで起こり、最後までスリリングに展開します。「芸術は平和のためになにができるか」を考えさせられます。

『鉱山(ヤマ)のビッグバンド』

小田 豊二／著（白水社）**音楽 764.7**

岐阜県の神岡鉱山の従業員によるバンドが終戦直後から昭和の末期まで存在し、ある時期は中部地区を代表するようなレベルの高い演奏を行っていた。このバンドについて、多くの関係者から聞き取りを行い、多様な資料にあたって綿密な調べを行なった、読みやすいポルタージュ。

（本館 可児）

『魔法のケーキ 焼くと3つの“層”ができる、不思議でおいしいお菓子』

荻田 尚子／著（主婦と生活社）**料理 596.65**

レシピ本大賞 in JAPAN2016 お菓子部門で大賞を受賞した本です。混ぜて焼くだけで、ふわふわスポンジ、とろーりクリーム、しっとりフランの3つの層になるから「魔法のケーキ」。簡単そうですが、ちょっとしたコツも必要。作るのが苦手な方は美味しそうなケーキの写真を眺めるだけでも満足できます。

『アンマーとぼくら』

有川 浩／著（講談社）**小説 913.6**

タイトルの「アンマー」とは沖縄の方言でお母さんという意味ですが、母親だけでなく、父親の愛情もいっぱいに感じられる家族の絆の物語です。今と昔が交錯する3日間の不思議な旅の中、沖縄の温かい風土と、美しい海や空、神秘的な自然が描かれていて旅心を刺激されます。

『なんでわざわざ中年体育』

角田 光代／著（文藝春秋）**エッセイ 914.6**

好きでもないのに5年も走り続け、ヨガや登山、ボルダリングにも挑戦する角田さんの原動力の一つが、中年になってもできるようになることがあるという驚きだそうです。「競うべくは、（中略）他人ではなく自分自身ののだと、中年だからこそ思い至ることができた」という言葉に共感しました。

（帷子分館 磯道）

『僕はこうして科学者になった 益川敏英自伝』

益川 敏英／著（文藝春秋）**伝記 289.1**

正直、素粒子論は難しくて分からないけれど、益川先生の少年時代が微笑ましい。2008年ノーベル物理学賞受賞時の面白く個性的なキャラクターは子供の頃から？飾らない言葉でご本人が今までの人生を語り、科学について論じます。名古屋大学では生協で売っているお饅頭に益川先生の似顔絵がついているそうです。

『ゴルドフィンチ』全4巻

ドナ・タート／著（河出書房新社）**外国文学 933.7**

村上春樹がエッセイ「村上さんのところ」で絶賛していた作品。主人公の少年は母親と美術館でテロに遭い、母親は死亡。逃げるとき、小さな名画を持ち出したことから事件が始まります。離婚した父親やかけがえのない友人との出会い、暴力や麻薬、名画を巡る駆け引きと意外な結末。全4巻を感じさせない面白さです。

『重力波は歌う』

ジャンナ・レヴィン／著（早川書房）**科学 441.1**

2015年9月、アインシュタイン最後の宿題とされていた重力波がついに観測。2016年2月、全世界に発表され、大きな反響を呼びました。画期的な成功の裏には様々なドラマが。ラスト、本当に観測されたことを知った関係者の驚きと喜びは圧巻です。ご一緒に暗黒の宇宙に響き渡る重力波の「歌」をお聞きください。（帷子分館 瀬尾）

『つくおき 週末まとめて作り置きレシピ』

nozomi／著（光文社）**料理 596**

「作り置きおかず」ブームの火付け役となったこの本は、2016年9月、第3回料理レシピ本大賞を受賞しました。週末に1週間分のおかずをまとめて作り置くと、平日がびっくりするほど楽になる！一品ずつのおかずレシピとしてもとても有能。

『君の脾臓をたべたい』

住野 よる／著（双葉社）**小説 913.6**

とにかくインパクトのあるタイトルが話題となった本作品。難病を患いながらも明るく豪快な少女桜良に戸惑いつつ憧れのような気持ちをもつ「僕」。印象的なタイトルに込められた意味とは…。2016年本屋大賞第2位。

『ぼくたちのリアル』

戸森 しるこ／著（講談社）**児童文学 913**

スポーツ万能、性格良好、学年一の人気者の璃在（リアル）。そんなリアルに昔からコンプレックスを感じていた幼なじみの渡。小学5年の新学期、サジという美しい男の子が転校してきたことによって運命が動き出した！それぞれ助け合いながら、3人は友情を深めていく。講談社児童文学新人賞受賞作。

（桜ヶ丘分館 角）

『コンビニ人間』

村田 沙耶香／著（文藝春秋）**小説 913.6**

36歳になっても結婚も就職もせず、コンビニでバイトをする恵子。コンビニのみが自分を確認できる場所となっていました。ところが周囲は暴力的にまでに彼女に、普通で生きることを求めてきます。普通とは何か？普通に生きることの難しさ。現代の世相を問う衝撃作です。

『昭和のあの頃ぼくたちは小学生だった』

かねこ たかし／著

（ディスカバー・トゥエンティワン）**歴史 210.7**

ちゃぶ台、蚊帳、竹とんぼ…、ノスタルジーを感じる品々が、イラストとともに紹介されています。あの頃小学生だった方はページを開けるたび懐かしい記憶がよみがえるでしょう。平成世代の方も昔の生活を垣間見てみてはいかがでしょうか？

『写実絵画の新世紀』（別冊太陽）

（平凡社）**美術 723.1**

写実絵画のみを所蔵するホキ美術館。設立以来、写実絵画ブームが到来しています。ホキ美術館のコレクションを作家ごとに掲載した美しい紙面。現在の日本の作家の超絶技巧と情熱を見てみてください。美術に関心のない方も素直に感動できると思います。

（帷子分館 濱口）

『世界のお墓』

ネイチャー＆サイエンス／構成・文（幻冬舎）

産業 629.8

絢爛、不気味、愉快、等々それはもう様々なお墓を解説付き美麗写真で紹介。時代と場所が違えば弔いの表現もこれほど違うのかと実に興味深いです。眺めていると、誰しもいつかはお墓に入るのだなー、としみじみした気持ちになってきます。

『字幕屋の気になる日本語』

太田 直子／著（新日本出版社）**言語 810.4**

著者の本業は外国映画の字幕翻訳。ことばに対する感受性の鋭さは職業柄でしょうか。言語学者ではないから感覚でことばをとらえている部分も多いようですが、その感覚がまっとうで、いちいち納得したり、我が意を得た思いで嬉しくなったり。隠れた名作映画の紹介もてんこ盛りです。

『鳥肌が』

穂村 弘／著（PHP研究所）**エッセイ 914.6**

もし、自分以外の人は皆、他人の心が読めるのだったらーと考えたことありませんか？まわりの人から自分だけ心が丸見えという恐怖。昔から怖がりだという著者（歌人）が、日常生活の中でふと捉えられてしまうささいな、でも思わず鳥肌が立つこわいことあれこれを、ユーモアをまじえて綴ります。

（帷子分館 熊崎）



『天草エアラインの奇跡。』

鳥海 高太朗／著（集英社）**産業 687.0**

倒産寸前まで傾いた日本一小さな航空会社「天草エアライン」。JALの整備部門出身の社長・奥島透が最も大切にしたのは、人と人との繋がりがかった。黒字になるまでの会社・社員の成長物語。日本一小さな空港図書館「みぞか図書館」の誕生にも注目してほしい。

『町の未来をこの手でつくる』

猪谷 千香／著（幻冬舎）**社会 318.6**

岩手県紫波町の「オガールプロジェクト」。「オガール」とは、紫波の言葉で「成長する」という意味を持つ。その中軸となったのが、図書館建設。農業支援サービスも特徴のひとつであるが、民間テナントの賃貸料を施設の維持管理費にあてがう等、官民複合施設の利点を活かし、90万人以上の人が訪れる「まち」となった。

『汚れつつあった悲しみに…』（角川文庫）

中原 中也／著（KADOKAWA）**詩 911.5**

中原中也の詩のテーマとなるが多かった「生きる」「恋する」「悲しむ」を基軸に、編集されている。各章ごとに制作年月推定順となっており、巻末の中原中也年譜と併せて読むと、わかり易いかもしれません。文庫本なので、若い人にも読んでもらいたい一冊です。（桜ヶ丘分館 松浦）

『なぜぼくが新国立競技場をつくるのか』

隈 研吾／著（日経BP社）**技術 526.7**

ひと悶着のあった新国立競技場。丹下健三の設計した代々木体育館に心を打たれ、建築家を目指した著者の建築への思い、「木」という素材へのこだわり、高さを抑え周囲の景観に配慮した構造、完成が待ち望まれます。

『立原道造の夢みた建築』

種田 元晴／著（鹿島出版会）**技術 523.1**

立原道造は詩人であり将来有望な建築家でもありました。24歳で夭折しなければ、どんなに詩情豊かな街並みを残したことでしょう。風景画のように描かれた美しい図面をみると、合わせて詩集も開きたくなります。

『三の隣は五号室』

長嶋 有／著（中央公論新社）**小説 913.6**

1966年～2016年に第一藤岡荘五号室で暮らした人々の生活が淡々とつづられています。どの人生もいとおしいと感慨深く読みおえました。50年間の世相が電化製品やTV番組などとともに懐かしく思い出されます。（本館 林）

『ポイズンドーター・ホーリーマザー』

湊 かなえ／著（光文社）**小説 913.6**

人にはさまざまな顔がある。表に見せる顔がすべてではなく、人には見せない部分にこそ本当の顔を隠し持っているのかもしれませんが。そんな人間の裏側の顔を覗き見るような物語たちです。人の心の裏の裏まで描き出す極上のイヤミス6編。

『コンビニ人間』

村田 沙耶香／著（文藝春秋）**小説 913.6**

2016年上半期の芥川賞受賞作。コンビニのアルバイトしか勤務経験のない36歳独身の恵子。コンビニでしか自分の居場所が見つけれない彼女に世間の眼は厳しい。普通でいるってどういう事なのか？改めて考えさせられる作品です。

『やせるおかず作りおき』

柳澤 英子／著（小学館）**医学 498.5**

今話題の作り置きおかずでのダイエットレシピ本。おかずを作り置きすることで、バランスよく栄養摂取。運動をまったくしなくても、一年間で26キロも健康的にやせることができた著者が、実際に食べていたレシピを、主菜と副菜に分けて紹介します。

（本館 樫山）

『世界で一番貧しい大統領と呼ばれたホセ・ムヒカ 心を揺さぶるスピーチ』

国際情勢研究会／編（ゴマブックス）**伝記 289.3**

2015年までの5年間、ウルグアイの大統領を務めたホセ・ムヒカについてわかりやすく書かれた本です。話題になった国連でのスピーチ、大統領就任演説や来日時の講演など「ホセ・ムヒカの言葉」が多数紹介されています。

『若冲の花』

朝日新聞出版、辻惟雄／編（朝日新聞出版）**美術 721.4**

江戸時代中期に京都で活躍した画家伊藤若冲は今年生誕300年を迎えた。200年間非公開だった京都・信行寺の天井を飾っている167枚の彩色花卉図をオールカラー、解説付きで紹介している。人々を魅了し続ける天才絵師の作品をご堪能下さい。

『羊と鋼の森』

宮下 奈都／著（文藝春秋）**小説 913.6**

ピアノ調律師が主人公という、これまであまり目にした事がなく、そして一見地味な内容にも思えるが、鍵盤をとおして感じる世界の奥深さが、驚きと心地よさを伴って、さわやかな読後感が得られる一冊です。

（本館 饒村）

『サイン・署名の作り方』署名ドットコム／著（スモール出版）**美術 728.7**

自己表現のツールとしてサインを作ってみませんか？サインを持つ意味、サインの作り方を豊富なサンプルを例にあげ紹介しています。

『平穏死という生きかた』石飛 幸三／著（幻冬舎）**医学 490.1**

八割の人が「平穏死」できない時代と、本文中で書かれていました。どのように家族を看取るのか、それを踏まえて自分はどうか生きたいのか、どういう終わり方をしたいのか、人生の生き方・締めくくりを考える一冊としてどうですか？

『ネコ科大型肉食獣の教科書』秋山 知伸／著（雷鳥社）**生物 489.5**

ユキヒョウ、トラ、ライオン、チーター、ヒョウ、ジャガー、ウンピョウなど野生の大型ネコ科を探し求めたことを綴った紀行文とその写真が掲載されています。ネコ科に関するQ&Aも収録されています。

（本館 溝口）

『東京會館とわたし』上・下

辻村 深月／著（毎日新聞出版）**小説 913.6**

東京・丸の内に実在する東京會館。大正・昭和・平成の東京會館の歴史が、そこで働く従業員や訪れる客たちの人生に絡めながら描かれます。時代が移り変わっても変わらない、従業員の仕事への情熱と、温かい心遣いに胸が熱くなります。優しさがじんわりと伝わる素敵な物語。

『レモンパイはメレンゲの彼方へ』

もとした いずみ／著（ホーム社）**小説 914.6**

絵本作家の著者が、絵本や童話に登場するおやつと、そのおやつにまつわるエピソードを紹介したエッセイ。思わずクスッと笑える、軽快で切れ味の良い語り口がとても魅力的です。紹介される絵本とおやつ、どちらも味わいたくなる、おいしくて楽しい一冊。

『語彙力こそが教養である』

齋藤 孝／著（KADOKAWA）**言語 814**

語彙力の重要性和、その身につけ方がわかりやすく紹介されています。語彙を増やすための、読書術やテレビ・ネットの活用法は、すぐに実践できそうなものばかり。口癖をなおす方法も教えてください。語彙力を鍛える「語彙トレ」、試してみませんか？

（帷子分館 東）

『小説君の名は。』

新海 誠／著（KADOKAWA）**小説 913.6**

今年の夏にアニメ映画として公開され、瞬く間に一世風靡した作品の小説版。岐阜県の飛騨市が舞台となる田舎町に暮らす女子高生・三葉と、大都会東京に暮らす男子高生・瀧は互いに入れ替わっている奇妙な夢を見るが…。著者は映画の監督でもあります。映画では監督独特の美しい情景を堪能し、ストーリーは小説で追うというのも楽しいのでは。

『恋のゴンドラ』

東野 圭吾／著（実業之日本社）**小説 913.6**

これからの季節にピッタリな冬のゲレンデを舞台に、難解なミステリーものではなく現代のリアルな恋愛模様を描いた作品です。章が7つに分かれているので短編かと思いきやすべて繋がっています。怒涛の展開なので一気読みできますよ。

『学べるマンガ 100 冊』

佐渡島 庸平 他／著（文藝春秋）**美術 726.1**

「これも学習マンガだ！」がコンセプトの1冊。大御所漫画家の里中さんと、灘高東大卒のマンガ編集者ほかマンガの達人たちが「文学」「職業」「歴史」「戦争」「科学・学習」「スポーツ」などテーマに分けて100 作品を紹介しています。自分が読んで感銘を受けた作品も多くあり、お勧めしたく思いました。

（桜ヶ丘分館 小島）

『外来種は本当に悪者か？新しい野生』

フレッド・ピアス／著（草思社）**自然 468**

外来種は、生態系に被害を及ぼす「侵入者」「侵略者」であり、駆除すべきものと考えられてきました。しかし、外来種の繁栄が自然の復元を促すものであるとしたら…。「新しい野生」として外来種と共存してゆくことはできないのか？従来の生態学・環境問題の考え方に問題を提起する一冊です。

『教養としてよむ世界の教典』

中村 圭志／著（三省堂）**宗教 165.3**

世界の主要な宗教・経典について概説されており、各宗教の特徴や差異が分かり易くまとめられています。仏教や神道など日本で身近な宗教についての理解が深まるだけでなく、各国の思想・文化の背景の理解にもつながります。琉球王朝やアイヌの人々が祭祀に吟じた詞などは大変興味深いです。

『にっぽんのかawaiiいタイル』

加藤 郁美／著（国書刊行会）**美術 751.4**

多治見市笠原町、この小さな町から、昭和 30 年代国内外の建物を彩ったモザイクタイルが大量に生産されていました。タイル産業の創生に尽力した山内逸三氏の業績と共に、昭和のタイルを残した建物の写真が郷愁を誘います。どのタイルも色彩やデザインが洗練されており北欧デザインに比肩する逸品だと思います。（桜ヶ丘分館 福井）

『小やぎのかんむり』

市川 朔久子／著（講談社）**児童文学 913**

両親から虐待を受けている中学 3 年生・夏芽と、両親から置き去りにされた少年・雷太が、山寺での暮らしの中で、人の優しさとヤギの温もりの中で癒され、成長していく感動作。作中の「子は宝」という言葉が、シンプルながらも印象的でした。

『何者』

朝井 リョウ／著（新潮社）**小説 913.6**

自分とは何者なのかを問い、問われ、葛藤する大学生たちの就活群像劇。就活生のカッコ悪さや黒い感情が生々しく描写されており、特に大学生が読めば、痛々しさや息苦しさを感じるあまり思わず読むのを止めてしまうかもしれません。

『無私の日本人』

磯田 道史／著（文藝春秋）**伝記 281.0**

同志と共に町の復興に奮起する商人・穀田屋十三郎、自らの生き方を貫く天才詩人・中根東里、多難な人生を歩む心優しき歌人・大田垣蓮月。彼らの生き様を描いた珠玉の三篇。「穀田屋十三郎」は「殿、利息でござる！」として映画化。（本館 多賀）

『ワンダー』R.J.パラシオ／作（ほるぷ出版）**児童文学 933**

生まれつき顔に障害があるオーガストは、10 歳ではじめて学校に通うことになった。生徒たちはオーガストを見て悲鳴をあげ、じろじろながめ、やがて…。主人公・家族・同級生など多数の視点から描かれたこの作品は、登場人物の誰かに共感し、想いを感じ取り、自分の中の何かを変えてく。そんな作品です。

『蜜蜂と遠雷』恩田 陸／著（幻冬舎）**小説 913.6**

各地を転々とし自宅にピアノを持たない少年、かつての天才少女、サラリーマン、名門ジュリアード音楽院の青年。ピアノコンクールを舞台に、人間の才能と運命、音楽を描いた青春小説です。数多の天才たちが繰り広げる競争という名の自らの闘い。第1次から3次予選そして本選を勝ち抜き優勝するのは誰なのか？

『おやすみ、ロジャー 魔法のぐっすり絵本』カール＝ヨハン・エリー／著（飛鳥新社）**育児 599.4**

読んでいる親も一緒に眠くなっちゃうような、心理学的効果が実証済みの寝かしつけ絵本とのことで、今年話題になった本作。自然に眠くなるよう「ここを強調して読み、ここであくびするように」などの細やかな指示が入っています。実際にこの本を借りて試された方、いかがでしたか？

（本館 篠田）

『七十二歳の卒業制作』

田村 せい子／作（福音館書店）**児童文学 913**

家計を助けるためひと月しか中学に行けなかった著者自身を主人公にした小説と、六十代で夜間中学と定時制高校を卒業し七十一歳で大学を卒業するためにゼミで創作した「児童文学作品」が一冊の本にまとめられています。やり残したことを行動におこし、「気が済んだ」と言える著者の生き方がカッコいいです。

『春夏秋冬 雑談の達人』

堀本 裕樹／著（プレジデント社）**詩 911.3**

俳句と言えば季語「暦と共に生きていますから。」が口癖の“俳句先輩”とちょっと気が利かない後輩の“男子くん”、ビジネスマンふたりの雑談に季語を用いて解説されています。俳句は詠めないという方にも俳句が身近に感じられますので、これからの日常会話に少し粋な季語を取り入れてみませんか。

『スポめし 賢く食べて結果を出す！』

細野 恵美／監修（朝日新聞出版）**スポーツ 780.1**

トップアスリートの栄養サポートをしている栄養管理士の著者が、懸命にトレーニングしているのに目標が達成できないなどスポーツをする人が抱える悩みについて、栄養学から一週間の献立や目的・悩み別の料理、栄養素も表示して紹介しています。実践すれば記録がUP！オリンピックも夢ではないかも。

(本館 土谷)

『本当の夜をさがして』

ポール・ボガード／著（白揚社）**技術 519**

現代の都市生活は、夜間に過剰な照明を使うために夜空が明るくなる「光害」にさらされています。この本は「光害」の与える影響と、本当の夜空を取り戻そうと努力する人々を追ったドキュメントですが、かつてはどこにでもあった「闇夜の美しさ」を懐かしみ、讃える文章には、胸に迫るものがあります。

『そうだ、星を売ろう』

永井 孝尚／著（KADOKAWA）**社会 336.1**

今や星空は貴重な観光資源になりました。長野県の阿智村は、「日本一の星空」をPRして大人気の観光地に。ですが当初は周囲から見向きもされないプランだったのです。この実話を基にしたビジネスモデル小説です。売れない時代の新しいビジネス戦略をわかりやすく解説しています。

『となりのイスラム』

内藤 正典／著（ミシマ社）**宗教 167**

テロ事件の影響で「イスラム教徒は怖い」というイメージがありますが、一方で、今や世界の人口の四分の一、15～16億人がイスラム教徒であるという事実があります。それほど多くの人を惹きつけるイスラムの教えとは何か？この本はイスラム教徒の生身の姿を紹介して誤解を解消し、さらに現在の状況を引き起こした原因を紐解いていきます。

(本館 長谷川)

きりとり

あなたも書いて
みませんか？

2016年に私が読んだこの本！ を募集！

あなたが2016年の1年間に読んだ本の中で、よかったもの・人におすすめしたいものを書いてください。かんたんな内容の紹介文も書いてください。出版年の古い本や図書館にない本でもOKです。選書の参考にします。また、内容を確認のうえ、可児市立図書館ウェブサイトで紹介させていただきます。

【本のタイトル・書名】	【書いた人・著者名】	【出版社】
【紹介文】		
【あなたのお名前 (ペンネームも可)】		

しめきり：1月26日（木）

この用紙を本館・各分館に備え付けの「私が読んだこの本！アンケートボックス」に入れるか、FAXで本館までお送りください。【可児市立図書館本館FAX 0574-62-5303】

あたらしく入った本

分類	書名	著者名	出版者名
心理			
159.4/イ/	図解働き方	稲盛和夫／著	三笠書房
一生懸命に働くと、人生の歯車がよい方向に回転する。稲盛和夫が、「働く」ということに関する自身の考えと経験を語り、労働が人生にもたらす、素晴らしい可能性を伝える。			
159/サ/	自分の番を生きるということ	佐々木正美／著	小学館
悔いはなく、いま至福の中にいる。81歳を迎えた癒やしの精神科医が、これまで出会った人々、そして、精神科医という仕事を通して得た人生の処方箋を、相田みつをの書の言葉とともに伝える。			
歴史・伝記			
288.4/テ/	知られざる天皇明仁	橋本明／著	講談社
「世襲の職業はいやなものだね」天皇になるために生まれてくるのは、かくも過酷なことだったのか。学友が明仁天皇の人間性を綴った「第一級史料」をまとめる。			
289.3/マ/	最新王妃マリー・アントワネット美の肖像		世界文化社
37歳で断頭台の露と消えたマリー・アントワネット。彼女が生きた証と、彼女が愛でた美の遺産をヴェルサイユ宮殿を訪ね、ウィーン国立古文書館に残る王妃の書簡から、その心の成長と真実を探る。			
社会			
312.1/イ/	これが「日本の民主主義」!	池上彰／著	ホーム社
安保法制や食の問題、原発政策、税制、メディアなど、テーマごとに戦後日本の政治をふり返り、民主主義の名のもとに、ありとあらゆる矛盾を先送りしてきた日本の姿を考える。			
323.1/シ/	安倍晋三の憲法戦争	塩田潮／著	プレジデント社
安倍首相の改憲思想のルーツをたどり、自民党と戦後の歴代首相の「憲法問題」への取り組みを追跡。さらに安倍首相登場後の「改憲政戦」の実相と、行く手に横たわる「壁」の虚実を分析し、改憲実現の成否を問う。			
369.2/ヨ/	介護施設で何が起きているのか	吉田輝美／著	ぎょうせい
なぜ高齢者虐待は起きるのか。介護労働者の日々の業務に対する意識、介護労働者が捉える虐待発生の原因や再発防止策について、全国調査結果に基づき、問題となる要因を様々な角度から分析する。			
376.1/シ/	こどものみかた春夏秋冬	柴田愛子／著	福音館書店
未知の物への好奇心、友だちとの葛藤、個性の違い…。精一杯生きるこどもたちの心のドラマを、ベテラン保育者が綴ったエッセイ。こどもの味方になるための、こどもの見方のヒントが満載。			
383.9/ト/	トイレ	尿尿・下水研究会／編著	ミネルヴァ書房
江戸のまちは循環型のエコシティだった！世界最古のトイレ、下水道の建設と水洗トイレの普及、江戸近郊における下肥の流通と肥船…。トイレについての歴史やトイレの構造、時代時代に見られる興味深い蘊蓄話などを紹介する。			
385.6/チ/	小さな葬儀と墓じまい	大野屋テレホンセンター／監修	自由国民社
家族葬、一日葬、直葬といった小さな葬儀や墓じまいの実際の進め方と手続き・費用などを、事例やQ&Aとともに解説する。最新の葬儀・お墓事情がよくわかる。			
自然科学・医学			
463.7/ボ/	自然がつくる不思議なパターン	フィリップ・ボール／著	日経ナショナルジオグラフィック社
ハチの巣の六角形、貝殻のらせん形、葉脈の枝分かれ…。生物にも無生物にも、微小世界にも大宇宙にも共通する、特徴的な形やパターン。美しい大判写真とともに、自然界の秩序を数学と科学で掘り下げる。			
498.3/ス/	「ぼんやり」が脳を整理する	菅原洋平／著	大和書房
気づきをつくる、ぼんやりする、自分を外から見る。この3つをうまく実行すれば、ひらめきを生み出すことができる。脳のひらめきを邪魔するNG行動を示し、ひらめくために必要なことや、良いぼんやりをつくる方法などを解説。			

技術・家政、産業

583.9/ツ/

つくって楽しむわら工芸

瀧本広子／編

農山漁村文化協会

正月飾り、つまかけぞうり、猫つぐら…。ワラを使った生活用具・飾り物・縁起物の中から、ワラの温かみや美しさを伝え、現代の暮らしの中にも取り入れられる作品を 16 種選び、そのつくり方を詳細な手順写真で紹介する。

596.3/オ/

アスリートシェフのチキンブレストレシピ

荻野伸也／著

柴田書店

鶏むね肉でボディメイク。理想のカラダを手に入れよう！身体を鍛えている人の毎日の食事に役立つ、簡単でおいしい鶏むね肉のレシピをバリエーション豊かに紹介する。

625.4/イ/

岐阜県のカキ

石垣和義／著

樹林舎

これほどまでに衣、食、住にわたり生活に密着している木はあるだろうか。岐阜県の屋敷柿の品種、特性から栽培方法、利用、加工法、料理法、民話、民間療法までを紹介。

673.9/タ/

なぜ、コメダ珈琲店はいつも行列なのか？

高井尚之／著

プレジデント社

なぜ、「お客の滞在時間」が長くても儲かるのか？なぜ、看板メニュー「シロノワール」が生まれたのか？日本のカフェ業界で存在感を増しているコメダ珈琲店のひみつを探る。

スポーツ、娯楽

783.4/エ/

サッカーなら、どんな障がいも超えられる

江橋よしのり／著

講談社

視覚障がいのある人が行うブラインドサッカー、脚や腕に切断障がいのある人が行うアンプティサッカー…。障がい者サッカーの日本代表選手がサッカーとの出会いや熱い思いを語る。7 つの障がい者サッカーの特徴とルールも紹介。

796/ア/

プロ棋士という仕事

青野照市／著

創元社

長考中は何を考えているのか？指した将棋はすべて覚えている？ボーナスや退職金はある？50 年近く将棋界に在籍した著者が、将棋界の仕組みや棋士の本音をエピソードを交えて面白く伝える。

文学論

902.1/タ/

詩のオデュッセイア

高橋郁男／著

コールサック社

「天声人語」の元筆者が、紀元前のギルガメシュから、唐詩、万葉、ダンテ、芭蕉、ランボー、白秋、賢治を経てボブ・ディランに至るまで、東西の詩句を年代に沿って辿り、寸感を添える。

910.2/シ/

戦争は殺すことから始まった

新船海三郎／著

本の泉社

世情がきな臭く動くなか、もう一度、あの戦争が何だったのかを考えたい。日本軍が何をしたか、文学はどうえがいてきたか。日本文学における戦争加害の描写について検証する。

日本文学－小説

913.6/アサ/

天子蒙塵 第 1 巻

浅田次郎／著

講談社

清朝最後の皇帝・溥儀は、イギリス亡命を望む王妃と、史上初めて中華皇帝との離婚に挑んだ側妃とともに、北京から天津へ…。時代の波に呑み込まれた男女の悲劇と、壮大な歴史の転換点を描く。

913.6/ウタ/

D の殺人事件、まことに恐ろしきは

歌野晶午／著

KADOKAWA

江戸川乱歩の世界が、サプライズ・ミステリの名手による驚愕のトリックと新たな魅力で蘇る。表題作など全 7 編を収録した短編集。

913.6/オウ/

闇の平蔵

逢坂剛／著

文藝春秋

悪党や、手下たちさえ顔を知らない火盗改・長谷川平蔵。不屈きにも「闇の平蔵」を名乗る者が現れて…。鬼平ファンに捧ぐハードボイルド時代小説第 3 弾。

913.6/クサ/

老乱

久坂部羊／著

朝日新聞出版

老い衰える不安をかかえる老人、介護の負担でつぶれそうな家族。地獄のような日々から、やっとひと筋見えてきた親と子の幸せとは…。在宅医療を知る医師による“認知症小説”。

913.6/コン/

シャルロットの憂鬱

近藤史恵／著

光文社

シャルロットは雌のジャーマンシェパード。警察犬を早く引退し、池上家にやってきた。犬同士、飼い主同士、ゆるやかな連帯も生まれるが、なかには不穏な事件を持ち込む者もいて…。

913.6/コン/	継続捜査ゼミ	今野敏／著	講談社
	キャンパスで起こる様々な事件は、やがてある大事件に結びつく。史上もっとも美しい捜査チーム誕生！元ノンキャリア刑事の大学教授とイマドキ女子大生が「未解決事件」に挑む、新感覚警察小説。		
913.6/サイ/	みやこさわぎ	西條奈加／著	東京創元社
	岩手芸妓・都姐さんが寿退職することになったのだが、なぜか表情が冴えなくて…。神楽坂で起こる事件をもと芸者のおばあちゃん・お薦さんが痛快に解決するシリーズ第3弾。		
913.6/ツム/	浮遊霊ブラジル	津村記久子／著	文藝春秋
	初の海外旅行を前に急逝した私。幽霊となって念願の地をめざすが…。表題作をはじめ、2013年川端康成文学賞受賞作「給水塔と亀」など、全7作を収めた短篇集。		
913.6/スク/	壁の男	貫井徳郎／著	文藝春秋
	北関東の小さな集落で、家々の壁に描かれた子供の落書きのような奇妙な絵。決して上手ではないが、鮮やかで力強い絵を描き続ける寡黙な男に、ノンフィクションライターは取材を試みるが…。		
913.6/ハラ/	リーチ先生	原田マハ／著	集英社
	西洋と東洋の芸術を融合し、新しい陶芸の世界を切り拓いたイギリス人陶芸家バーナード・リーチ。その半生を、二代にわたり弟子となった名も無き父子の視点から描く。		
913.6/モロ/	梅もどき	諸田玲子／著	KADOKAWA
	関ヶ原の戦いで徳川勢力に敗北した父を持ち、のちに家康の側室となり、寵臣・本多正純に下賜されたお梅の方。数奇な運命に翻弄されながらも、しなやかに生きぬいた実在の女性の人生を描く。		
913.6/ユズ/	慈雨	柚月裕子／著	集英社
	16年前の幼女殺害と酷似した事件が発生。かつて刑事として捜査にあたった神場は、退職した身で現在の事件を追い始める。消せない罪悪感を抱えながら…。元警察官の魂の彷徨を描く。		

コミュニケーションボードを用意しました

ボードにある文字や絵などを指さして、自分の気持ちを伝えることができます。障がいのあるかたや外国人のかたなど、言葉でのコミュニケーションがむずかしい方をはじめ、どなたでもご利用いただけます。本館・分館のカウンターにありますので、どうぞお使いください。

展示のご案内

■ 11 / 26 (土) ~ 12 / 11 (日) ■

可児市人権啓発センター、人づくり課 合同人権展 (本館1階)

12月4日から10日は人権週間です。今年も可児市啓発センターと可児市人づくり課の合同人権展を行います。人権とは自分が自分らしく生きるための権利。誰もが身近にある人権問題についてこの機会に考えてみませんか。

■ 12 / 14 (水) ~ 27 (火) ■

心に効く「医師の言葉」展 (本館1階)

医師であり文筆家でもある人は、少なくありません。病院での経験を元にした、心に効く医師の言葉を読んでみませんか。

開館時間 【本館】 平日 10:00~19:00、土日祝 10:00~17:00
【分館】 全日 9:00~17:00

休館日 毎週月曜日 (12月5, 12, 19, 26)
年末年始 (12月28日~1月4日)

携帯用
サイト



「図書館だより」2016年12月号

発行：可児市立図書館 編集：長谷川 (本館) 電話 (0574) 62-5120
資料検索・予約は <http://www.kani-lib.jp/> をどうぞご利用ください。
来年もよろしくお願ひします。皆様よいお年をお迎えください。